

# おとなりさん



秋号

vol.15 2017.11.1

小さな町へ。

## 休刊のごあいさつ

こんにちは。  
「おとなりさん」の編集長をしております、  
長嶺俊也です。

すでに、公式ホームページ上では  
発表をさせていただいておりましたが、  
この度「おとなりさん」を休刊する  
こととなりました。

「おとなりさん」は、  
今回の秋号で15号を数えました。  
季刊発行ですので、約3年半にわたり、  
自治会の情報をみなさんに  
お届けしてまいりました。

「おとなりさん」は  
小田原の地域コミュニティーを  
映す鏡でした。  
3年半かけてスタッフみんなでつくった  
この「おとなりさん」というものが、  
はたして何かを成し遂げることが  
できたのかどうか、ぼくにはわかりません。

媒体として、  
まだやれることがあったような気もしますし、  
逆に、やるべきことはすべてやりきったような  
感じもしています。

とはいえ、はじめたら、  
いつかは終わらせなければいけません。  
「おとなりさん」は、ここで終わります。

休刊のごあいさつには  
あっさりしてると思われるかもしれませんが、  
力を注いできたものだからこそ、  
最後までいつも通りに、  
お別れしたいと思っています。

今まで「おとなりさん」を読んでいただき、  
ありがとうございました。  
運営を見守っていただいた、  
小田原市自治会総連合の木村会長、  
校正等でお手数をおかけしました、  
小田原市の自治会担当の方たちには、  
大変お世話になりました。

運営して来た  
「デザインこねこ株式会社」としては、  
「おとなりさん」の読者のみなさん、  
そして自治会のみなさんと  
一緒にすごした年月は、  
得がたい財産となりました。

ぼくたちは、また新しいことに  
チャレンジしていきます。

終わりは、はじまり。  
また、どこかでお会いしましょう！

おとなりさん編集長  
デザインこねこ株式会社  
取締役社長  
長嶺俊也

## 「おとなりさん」のWebマガジン & ソーシャルメディア



おとなりさん

# 「小田原川柳大賞」

## 審査発表

「小田原」を詠む。



第三回「おとなりさん

小田原川柳大賞」は

『小田原らしい風景』という

テーマで作品を募集しました。

334点のご応募をいただきました。

投稿していただきました。

すべての方々に

厚く御礼を申し上げます。



大賞

賞金 一万円  
副賞 横溝節店の「蒸籠」21センチ

優秀賞

賞品 横溝節店の「蒸籠」21センチ

平井書店賞(平井書店 協賛)

賞品 図書カード 50000円分

## 大賞 編集部選

「会いたい」と箱根板橋背を探す

鴨野箸 小田原市45歳

「板橋のお地藏さん」といえば、小田原人なら知らない人はいないのではないのでしょうか。毎年1月と8月の23、24日に先祖供養のお祭りが行われ、この日に詣でると亡くなった身内と瓜二つの顔の人に会えるといわれています。鴨野箸さんの句はそんな地域の人の心より所となっている、このお地藏さんのお祭りの情景が浮かんできます。実は、「おとなりさん」の創刊も、この板橋のお地藏さんのすぐ近く、お祭り当日には露店が立ち並び旧東海道沿いに建つ築50年の一軒家はまだ事務所がある時でした。露店で玄関がふさがれ勝手口から出入りしたのも懐かしい思い出です。(編集長・長嶺俊也)

## 優秀賞 柳家三三賞

一夜城立てば錯覚天下人

小田原 Person 小田原市 57歳

いいですねー！汗かいて登った達成感、最高の見晴らし、歴史ロマン：いっぺんに感じられて、そこにユーモアでひとひねり。思わずニッコリな一句、三三賞お受け取りください。毎回みなさんの作品が小田原のさまざまな魅力に気づかせてくれます。



柳家三三(やなぎや・さんざ) 1974年小蛭田生まれ、本名小田田健司 1993年3月小田原高校卒業後に門家小三治に入門「小多け」1996年5月ニッ目昇進「三三」に。2006年3月真打ち昇進。寄席、ホール落語など全国で精力的に活動。

## 優秀賞 椰月美智子賞

アルバムに梅とウメ子と妻がいる

ペー助 山口県岩国市71歳

陽の当たるリビングで、昔のアルバムを懐かしそうにめくっている年を重ねた男性。匂い立つような梅の花と、つぶらな目をしたウメ子。象舎の前でやさしい笑顔を向ける今は亡き妻。そんな情景が瞬時に浮かびました。人生は本当にあつという間ですね。(奥様ご健在でしたら失礼！)



椰月美智子(やづき・みちこ)小田原生まれ。2002年『十二歳』で第42回講談社児童文学新人賞を受賞し、デビュー。2007年『しずかな日々』で第45回野間児童文学賞と第23回坪田譲治文学賞をダブル受賞。その他の作品に『るり姉』『伶也と』など著書多数。最新刊は『見た目レシビイかがですか?』。

## 平井書店賞 平井書店選

長太郎町を愛する名短編

ムク坊 横浜市79歳

私小説のカテゴリーで、有名な「川崎長太郎」さん、(昭和の作家 Longshot) 小説の中に、小田原の風景も浮かんできます。だるま料理店のチラシ井が好物で、仲居さんから「チラさん」と呼ばれていたそうです。早川観音の近くに、文学碑もあります。皆様も、風景を探しに、ぶらぶら歩いてみましょう。また、この町が楽しくなりますね。首都圏の若い方も、ファンが多いのですよ。(代表作は「抹茶齋」講談社学術文庫)



平井義人(ひらい・よしひと)平井書店 店長明治29年創業、(積善堂)平井書店の4代目。地元元々、ブック・トーク開催、ブックマーケットへの協力など、また、「まちなかな実と代軽か寄席」を企画「ほっつファイブタウン」表も務める。

その他の応募作品は「おとなりさん」Webサイトで! <https://otonarisan.info/>

おとなりさん 小田原 検索